

# 高等教育におけるリーディングの協同学習の効果 — 協同学習の導入による学習者の読書意欲喚起 —

## The Effect of Cooperative Learning on EFL Reading in Tertiary Education: Does Cooperative Learning Arouse Learners' Reading Potential?

(2014年3月31日受理)

バーデン 京子  
Kyoko Sunami-Burden

Key words : 協同学習, リーディング, ペアワーク, ピア・リーディング, 読書意欲

### 概 要

本研究は、高等教育における外国語教育のリーディング授業において協同学習 (Cooperative Learning) を導入することで、学習者の英語の読書に対する姿勢や態度がどのように変化したかを探求するものである。また、授業で使用した教科書の満足度や協同学習の評価を調査した。協同学習による学習成果は不明だが、協同学習は学習者に社会的・情意的・認知的効果をもたらし、英語での読書意欲の喚起につながることがわかった。

### 1. はじめに

昨今の急速なデジタル化によって、書簡・書籍などすべてをデジタル媒体にて読み書きする人口が増え、それと共に『活字離れ』の人が増える傾向にあるが、若者にその傾向が顕著にあらわれている。また、2013年度から高等学校の英語に関しては、『使える英語』の修得つまりコミュニケーション能力育成を核とした新学習指導要領 (2010)<sup>1)</sup>が実施され始め、教科の廃止・統合が行われた。この結果、「リーディング」と「ライティング」という教科は、「コミュニケーション英語」に取って代わられた。このように、高等学校での英語の「リーディング」を取り巻く環境は、大幅に変わった。これは、まさしく豊田 (2010)<sup>2)</sup>が危惧していた通りと言える。高等学校後の高等教育における『読書嫌い』を増やす要因は増すばかりである。

そこで、筆者は学習者の『読書嫌い』を少しでもなくし、読書というものに対する姿勢に変化をもたらせるべく、中国短期大学 (以後、本学とする) 英語コミュニケーション学科における「リーディング」の授業に協同学習

を導入し、その効果について実証を行う。

### 2. 背景と目的

2013年度本学にて「リーディング」を担当することになった筆者も、かつては『読書嫌い』の大学生であった。大学では英文学科の学生でありながら、「リーディング」の授業が何よりも嫌いであった。自分とは何の関わりもない古い英文学教材の難解な文章をただひたすら翻訳していだけであり、和訳の正しさだけが要求される授業であった。また、授業形態は教師対クラス全体で、授業中には他のクラスメートとの交流は全くなかった。「リーディング」を通して、英語での読書に興味を抱くどころか、英語であろうが日本語であろうが、読書が嫌いになる一方であった。Silva (2008)<sup>3)</sup>が、述べているように、まさに「新しく理解可能な学習には興味がわくが、新しく理解不可能な学習は混乱を招く。」(p. 58)の状況下であった。

その後、日本における高等教育の「リーディング」の授業は様相を変えた。Extensive Reading, つまり「多

読」なるものが登場し、その教材として学習者の習熟度レベル別に語彙や文法事項を統制して編纂された図書であるGraded Readersが高等教育に広く取り入れられている。本学でも、「オーラル・イングリッシュ」の授業の一環として、2000年度から前任のレマー准教授によって導入された (Lemmer, 2012)<sup>4)</sup>。学生の読解力や試験のスコア向上が実証されており、また、学生による授業評価アンケートにも好意的なコメントが見られた (Lemmer, 2006)<sup>5)</sup>。

まず、本学の英語コミュニケーション学科2013年度入学の1年生全26名の読書に対する考えや姿勢を把握するため、2013年度の筆者の「リーディングA」の授業初日に、簡易アンケートを実施した。当日が学生との初対面の日であったため、各自に自己紹介の文を書かせ、提出させた。簡易アンケートとは、その提出物の裏面に筆者からの質問の答えを書かせる形式であり、統計処理を行っていないため、そう呼ぶ。その質問内容は、以下の3つである。

- ① 英語は好きですか？
- ② 日本語による読書は好きですか？
- ③ 将来の夢・希望は何ですか？

このアンケートに目を通してみると、①の質問に関しては、全26名の学生ほぼ全員が「英語は好き。」と答えた。読書に関する②の質問に関しては、半数近くに及ぶ学生が「好きではない。」と答えており、中には「読書はしたことがない。」とか「読書は大嫌い。」と回答している学生があった。デジタル世代の『活字離れ』が叫ばれて久しいため、このような結果になることはある程度想定していたが、残念な結果だったことは間違いない。母国語での読書に興味がないのであれば、ましてや外国語による読書には興味がないのは明白である。

本研究では、前述にある筆者自身の過去の体験をふまえ、「リーディング」の授業において、実験的に協同学習を取り入れることにより、本学の英語コミュニケーション学科の学生たちにいかに英語での読書を促せることができたかを検証するものである。

### 3. リーディングの協同学習

「教室」という場所は、生徒・学生同士が「互いに学び合い、成長していく」場所である (水野, 2010)<sup>6)</sup>。また、授業が、仲間との相互交流、相互の支え合いの中で行われなければ生徒・学生たちが学校で学ぶことの意味がないという社会構成主義の学習観が近年急速に注目されるようになった (Sawyer, 2006)<sup>7)</sup>。その観点から、協同学習の重要性が叫ばれて久しい。協同学習は、伝統的な競争学習に比べて優れた成果をもたらすことが、Astin (1993)<sup>8)</sup>によって明らかになっている。その理由として、学生が学習の過程に、より積極的に、そしてより深く関与するからだ、述べている。

2013年度入学の本学英語コミュニケーション学科の1年生は全員女子である。女子学生は、男子学生よりも『一緒に知ること』、つまり他の学生との交流を通して知識を得ることと結びついた、より協同的な学習スタイルを好む傾向にあると、Belenky, Clinchy, Goldberger & Tarule (1986)<sup>9)</sup>は示唆している。

協同学習を取り入れたリーディングの授業のあり方として、2つの方法が考えられる。『ピア・リーディング』という活動 (館岡, 2005)<sup>10)</sup>と『読書コミュニティ』づくりがある (水野, 2010)<sup>6)</sup>。前者は、生徒・学生はあるテキストの理解を、生徒・学生同士が助け合いながら対話的に問題解決を行い理解していく方法である。一方、後者は生徒・学生個人が自分の価値判断に基づいて本を選び、授業外に読書をし、読書後に本のレビューを他の学生に紹介し合う方法である。後者は、まさに2000年に本学でレマー准教授が導入した (Lemmer, 2012)<sup>4)</sup>オーラル・イングリッシュの授業の一環のExtensive Reading、「多読」である。現在も後任のネイティブの教師によって引き継がれて、実践されている。したがって、筆者は前者の『ピア・リーディング』を「リーディング」の授業に導入してみることを考えた。

ネイティブの先生が「多読」を推進し、学生を『読書コミュニティ』に参加していく『自律的な読み手』にしていくことを目標とするならば、筆者は、リーディングの授業にて、学生同士の協力によってタスクを実行し、本研究では読書の達成感・満足感を体験させ (Baleghizadeh, 2010)<sup>11)</sup>、『読書嫌い』を少しでも少な

くするためのフィルターを取り除くことを目標としている。

## 4. 研 究

### 4.1. 対象者

本研究の対象者は、本学英語コミュニケーション学科の「リーディングA」を履修の1年生25名、全員女子である。本科目は必修科目であり、1年生全員が履修する。週2回開講で、全30回の講義となる。2013年5月中旬から7月末の講義終了までの、22回の授業を対象とした。

授業で使用する教科書は敢えて文学作品を選択しなかった。それは、前述の筆者の経験からである。学生にとって内容が身近で馴染みやすいものを採択した。オックスフォード大学出版のGraded ReadersのBookworms Library FactfilesシリーズのStage 2: Seasons and Celebrations<sup>12)</sup>とStage 3: The USA<sup>13)</sup>の2冊を使用した。双方ともノンフィクションである。

### 4.2. 授業構成

まず、ペアのグループ決定には、「教師が決める」、「学生に委ねる」、「ランダムに決める」、の3通りが考えられる(Ning, 2011)<sup>14)</sup>。筆者は、くじ引きで、ペアのグループ分けを行った。学生の好きなようにペアを組ませると、仲の良い学生同士でペアを組んで授業中の私語が多くなったり(Baleghizadeh, 2010)<sup>11)</sup>、学生によってはペアの相手が見つからなくて孤独感を感じたり(Johnson and Johnson, 1999)<sup>15)</sup>、という事態が生じるのを防ぐためである。このペアのグループ分けは、7～8回に1回の割合で行い、前期中計4回行った。学生数が25名と奇数のため、12組のペアと1組は3名のグループという構成になった。このグループ分けには、当初学生から不満の声が挙がっていたが、回数を重ねるうちにその声もなくなり、次回は誰とペアになるのかという不安もある一方で、期待もあったようだ。

授業の進行手順は以下のとおりである。

- 1) 学生が各自その日のユニットのテキストを黙読する。(1人での作業)
- 2) 黙読したテキストをCDにて音声で聴き、発音や

アクセント等の確認をする。(1人での作業)

- 3) ペアでテキストを音読する。音読方法は学生に委ねている。ピリオドごとつまり1文ごと、パラグラフごとなど、2人の間で取り決めて行う。
- 4) クラス全体で、精読する。テキストの1パラグラフにつきペア1組が担当し、音読して発表する。その際の役割も学生間の取り決めて行う。精読として当初は、伝統的な手法、つまり1文々を訳していく方法を実施していたが、以下の6)で述べる毎回実施した授業アンケート(付録1)で、数名の学生から「難しくて大変なので、穴埋め方式にして欲しい。」という要望があった。学生の要望に応じて、すぐに改善し、穴埋め方式へと変更した。穴埋め箇所は、テキストの新出単語や重要単語の箇所、採用したGraded Readerのターゲットとしている構文使用箇所、読解のポイントとなっている箇所とした。前もって予習用に、この穴埋め方式のプリントを学生に配布する。学生は自主学習で各自テキストを読み穴埋めを行なっている。
- 5) 教科書の巻末にある読解チェックをペア各組で行う。その後、答え合わせとしてクラス全体で読解チェックの確認を行う。
- 6) 授業アンケート(付録1)を用いて、自主学習の程度、内容の関心度、ペアのパートナーとの協力度、授業の満足度等を調査した。このアンケートは、毎授業の終わりに5分程度を割り当てて実施し、5月中旬から7月末の講義終了日まで22回の授業で行った。質問は、5段階選択方式の質問が6問と、自由回答式の質問が1問で構成されている。このアンケートは、学生と教師のコミュニケーション・ツールとしての役割も果たした(Sunami-Burden, 2014)<sup>16)</sup>。

### 4.3. 研究手順

前期終了後の期末試験の際に、本学教務課が実施している授業評価アンケートとは別に「リーディングA」の授業の総体的評価アンケートを実施した(付録2)。このアンケートは、前述の毎授業の終わりに実施したアン

ケート（付録1）の総まとめ的なもので、5段階選択方式の8問の質問で構成されており、授業での教材の適切性、内容、協同学習について、さらには、英語での読書への興味喚起についても問うた。また、学生の率直な意見・提案が記入できる自由回答式スペースを設けた。この総体的アンケートの5段階選択方式8問の結果を、統計ソフトSPSSにて統計処理を行った。尚、付録1の毎回実施した授業アンケートの統計結果は、Sunami-Burden (2014)<sup>16)</sup>に掲載する。

加えて、アンケートの自由記述スペースに記入されていた学生のコメント、ならびに本学教務課が行っている授業評価アンケートにも学生の意見・感想が記入されていたので、それも参考にした。

## 5. 結果と考察

表1は、5段階選択方式8問の質問の統計結果を表す。

Q1からQ8までの全質問で、平均値(M)が4以上の高得点を示した。参加者の数が少なく、結果として得点のバラツキも少なく、統計的に有意性が見られる結果とは言い難いが、参加者の考えを大まかに捉えることは可能である。

Q1は採用した教科書の満足度に関する質問である。平均点は4.40と高い得点であるが、3と評価した学生が無く、両極に分かれているのが特徴である。全ての学生の興味を引く教科書を選ぶことは不可能であるから、このような結果になったのは仕方ないことであろう。

Q2は、教科書のユニット内容への興味に関する質問

である。平均点も各点の割合もQ1に非常に近い結果となった。相違点としては、1と評価した学生がなかったことである。

Q3は協同学習の評価を問い、Q4は協同学習におけるペアの相手やグループ仲間との協力度を問うた。双方とも、全員が3以上を選択しており、特にQ4では平均点4.72と高得点であった。この結果、参加者全員が協同学習を肯定的に捉えていると言える。これは、言語教育においては元来ペア/グループワークが多用されていること(Oxford, 1997)<sup>17)</sup>、また本学英語コミュニケーション学科のオーラル・イングリッシュの授業でも行われていることから、学生は協同学習に慣れているため、抵抗感が少ないからと考えられる。

Q5、Q6、Q8は、今後の英語での読書に対する姿勢に関する質問である。全員が3以上を選択しており、今後の英語での読書に対する意欲の表れを示している。特に、Q6の英語での読書への興味は、5を選択した学生が80%に上り、平均点が4.80とかなりの高得点である。ほとんどの学生に英語での読書に対する興味が高まったと言えるのではないだろうか。

Q7は、英語の読解力向上に関する質問である。実際に学生はプレテストやポストテストを受験しておらず、また他の英語能力試験を受験していないので、学生は自身の読解力が向上したかどうか不明なのは、理解できる。

自由回答式スペースには、9名の学生がコメントを記入していた。コメントは以下に記す。そのコメントの中で、授業内容もしくは協同学習に関するコメントは、7件あった。

Table1: アンケート調査の結果

(%) n=25

	5	4	3	2	1	M	SD
1. 教科書の満足度	60.0	32.0	0.0	4.0	4.0	4.40	1.000
2. 教科書のユニット内容の興味	60.0	32.0	4.0	4.0	0.0	4.48	0.770
3. 協同学習の評価	60.0	28.0	12.0	0.0	0.0	4.48	0.714
4. パートナーとの協力度	76.0	20.0	4.0	0.0	0.0	4.72	0.542
5. 英語での読書の発展性	72.0	24.0	4.0	0.0	0.0	4.68	0.557
6. 英語での読書への興味	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	4.80	0.408
7. 英語の読解力向上	64.0	28.0	0.0	4.0	4.0	4.44	1.003
8. レベルアップ読書への意欲	56.0	36.0	8.0	0.0	0.0	4.48	0.653

- ・1人で読んで、1人で訳してもいいと思う。途中から予習のプリントが配布されたのは良かったと思う。[学生4]
- ・楽しい授業だった。[学生7, 学生10]
- ・教科書の内容が割と簡単だったので、もう少し難しいのを読みたかった。[学生12]
- ・この授業でアメリカのことや世界の祭日について知ることができ、本当に楽しい授業だった。[学生13]
- ・授業はいつも楽しいし、いつもためになることばかりだった。[学生14]
- ・習った内容は、知っている・耳にしたことがあることだったので、興味深かった。またペアワークで協力できたので、満足。[学生20]

協同学習効果の研究で、Barkley, E. F., Cross, P., and Major, C.H. (2005)<sup>18)</sup> は、「講義に比べて、クラス内で学習仲間と対話しながら学んだ学生が、学習仲間や教師との交流がない学生よりも、科目に対する肯定的な態度、その科目をもっと学びたいという強い動機づけ、自分の経験に対する大きな満足を示す。」と述べているが、今回の研究でも学生のコメントを見る限り、その傾向は証明されている。

コメントの中には、協同学習に関して、直接述べているのは、[学生20]にしか見られなかった。

また、[学生4]のコメントは、協同学習を否定しているわけではないが、単独学習との比較を促しているものであった。開講当初から協同学習で授業を進行してきたので、学生はリーディングの授業における単独学習との違いが比較できなかったのは確かである。または、Oxford (1997)<sup>17)</sup>が「習熟度が高い学習者の多くは、低い学生と比較して、協同学習で習熟度向上を享受できないため、単独学習を好む。」(p. 446) と示唆するように、元来習熟度が高い学生であるのかもしれない。

「楽しい授業だった」というコメントが多かったが、授業の何が楽しかったのか明記していない。表1の結果から類推すると、ペアワークで他の学習者と交わることで、学ぶ楽しみが増大したのではないだろうか。協同学習は、学習成果の向上だけでなく、肯定的な社会的・情意的・認知的な効果がある(Willis, 2007)<sup>20)</sup>としている。学習成果の向上に関しては前述のように不明である

が、上記Willis (2007)<sup>20)</sup>の主張する残りの効果については本研究でも立証できたのではないだろうか。

本学当局実施の学生による授業評価のアンケートでは、授業内容および協同学習に関するコメントは9件あった。

- ・楽しかった。人生ではじめてこの授業で予習というものをした。
- ・文化や習慣についても知れた。
- ・ペアワークが楽しかった。
- ・プリントのやり方がわかりやすかった。
- ・英語だけでなく、色々な国の文化が知れた。
- ・予習が毎回あるのは辛かったけど、その分授業の進行も楽になり良い自主学習にもつながった。
- ・楽しい授業だった。(2件)
- ・プリントがすごくわかりやすくて、とても授業が楽しかった。

授業評価アンケートでも「楽しかった」というコメントが多かった。学生の要望に応じて、『穴埋めプリント』を採用したことが、良い結果をもたらした一つの要因といえるであろう。

## 6. まとめと今後の課題

今回の研究では、リーディングの授業を実験的に協同学習で行い、その教育的効果を探ってみた。

量的また質的研究の双方の見地から、リーディングの協同学習は本学の英語コミュニケーション学科の学生には好意的に受け入れられたことが示された。また、教科書選択もこの好結果を導く一助になったと言えるのではないだろうか。

学生の要望に応じて、途中で穴埋め式を採用し授業形式を変更したのも功を奏したと言える。これは、Kumaravadivelu (1993)<sup>21)</sup>の「学習機会は教師と学習者双方で創り出される。」という主張を実践した形となった。

本論は、協同学習を組み立て・実践するひとつの例として、元来は1人で行う学習であるリーディングの授業を協同学習で実践したが、他の授業においても様々な

ループワークやペアワークのタスクを組み込むことによって、協同学習が実現可能なはずである。

先に述べたように、女子学生は協同的な学習スタイルを好む傾向にある (Belenky, Clinchy, Goldberger & Tarule, 1986)<sup>9)</sup> ことから、参加者が全員女子だったため、本研究では好意的な結果になったかもしれない。Okert (2011)<sup>23)</sup> や Burden & Sunami-Burden (2013)<sup>24)</sup> の研究では、男子学生は英語学習において座学より能動的にコミュニケーション的なタスクをする方を好むと実証されているので、男子学生が多数を占める授業においては、リーディングのような座学的な授業には不向きかもしれないが、他の授業で協同学習は可能ではないかと予測できる。

教師は、学習者の特性を活かした授業を積極的に導入するべきである。協同学習を取り入れることは、授業を活性化することになり、学習者に学習することの楽しみ・喜びを味あわせるのを促す。学生による授業評価アンケートの「楽しかった。人生ではじめてこの授業で予習というものをした。」のコメントにあるように、協同学習は学習者の動機づけにも効果があるのではなからうか。今後、協同学習と動機づけの相関関係を探る研究も行っていきたい。

本研究は対象者25名と少数であったため、本論の量的結果を一般化することはできない。対象者多数の同様な研究を強く望むものである。リーディングだけではなく、同じ学習者を対象に他の教科で、また異なる学習者対象にリーディングで、さらに異なる学習者で他の教科で、など様々な学習者と教科を組み合わせ、同様の調査を積み重ね、協同学習の効果を立証するべきである。

本研究では、協同学習実施の前後で参加者の読解力や英語力を測定していなかったが、次研究では前後で測定を行い、学習者の能力変化についても調べたい。

また、学習者にペアワークの個人責任や依存関係について尋ねることによって、より深い質的研究も可能ではなからうか。

2014年度の「リーディングA」の授業でも、引き続きこの協同学習を採用していく予定である。2013年度同様、学生の意見を取り入れながら修正を加え、学生にとってよりよい授業になるよう工夫していきたい。

本学の英語コミュニケーション学科の学生が、筆者の

「リーディングA」の授業の後、自ら進んで英語での読書に着手するようになるのを心から望んでいる。

## 引用文献

- 1) 文部科学省:高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編(2010)[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afildfile/2010/01/29/1282000\\_9.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afildfile/2010/01/29/1282000_9.pdf)
- 2) 豊田 昌倫:リーディングの問題点と新たな視点。「英語教育学大系 第10巻; リーディングとライティングの理論と実践 -英語を主体的に『読む』・『書く』」(木村博是・木村友保・氏木道人 編), 大修館書店 (2010) pp. 3-14.
- 3) Silva, P.: Interest---the curious emotion. *Current Directions in Psychological Science* (2008) 17(1), pp. 57-60.
- 4) Lemmer, R. J.: A decade of reading and learning; a history of the extensive reading program in the department of English Communication. *Chugokugakuen Journal* (2012) 11, pp. 5-11.
- 5) Lemmer, R. J.: A study of reading gains as related to extensive reading. *Chugokugakuen Journal* (2006) 5, pp. 1-5.
- 6) 水野邦太郎: ICTを活用した読書コミュニティづくり。「英語教育学大系 第10巻; リーディングとライティングの理論と実践 -英語を主体的に『読む』・『書く』」(木村博是・木村友保・氏木道人 編), 大修館書店 (2010) pp. 15-29.
- 7) Sawyer, R. K.: *The Cambridge Handbook of Learning Sciences*. Cambridge University Press (2006).
- 8) Astin, A.: *What Matters in College? Four Critical Years Revised*. Jossey-Bass Inc. (1993).
- 9) Belenky, M. F., Clinchy, B. M., Goldberger, N. R., and Tarule, J. M.: *Women's Ways of Knowing: the Development of Self, Voice, and Mind*. Basic Books (1986).

- 10) 舘岡洋子：「ひとりで読むことからピア・リーディングへ；日本語学習者の読解過程と対話的協働学習」, 東海大学出版会 (2005).
- 11) Baleghizadeh, S.: The effect of pair work on a word-building task. *ELT Journal* (2010) 64/4, pp.405-411.
- 12) Maguire, J.: *Oxford Bookworms Library Factfiles; Seasons and Celebrations Stage 2*. Oxford University Press (2008).
- 13) Baxter, A.: *Oxford Bookworms Library Factfiles; the USA Stage 3*. Oxford University Press (2008).
- 14) Ning, H.: Adapting cooperative learning in tertiary ELT. *ELT Journal* (2011) 65/1, pp.60-69.
- 15) Johnson, D. and Johnson, R.: Making cooperative learning work. *Theory into Practice* (1999) 38/2, pp.67-73.
- 16) Sunami-Burden, K: Cooperative learning in EFL reading classroom in the tertiary education; a way to improve the classroom climate through a communication tool. *Chugokugakuen Journal* (2014: In print) 13.
- 17) Oxford, R.: Cooperative learning, collaborative learning, and interaction; three communicative strands in the language classroom. *The Modern Language Journal* (1997) 81, iv, pp.443-456.
- 18) Barkley, E. F., Cross, P., and Major, C.H.: *Collaborative Learning Techniques; A handbook for college faculty*, John Wiley & Sons, Inc. (2005), 安永 悟 監訳：「協同学習の技法 大学教育の手引き」, ナカニシヤ出版 (2009) p.15.
- 19) Willis, J.: Cooperative learning is a brain turn-on. *Middle School Journal* (2007) 38/4, pp.4-1.
- 20) Kumaravivelu, B.: Maximizing learning potential in the communicative classroom. *ELT Journal* (1993) 47/1, pp.12-21.
- 21) Okert, D.: A multivariate analysis of Japanese university student motivation and pedagogical activity preferences. *The Language Teacher* (2011) 35(2), pp.9-17.
- 22) Burden, P. and Sunami-Burden, K.: Teaching style insights and learning attitudes of Japanese tertiary students. *Journal of Okayama Shoka University* (2013) 49(2), pp.1-22.

月 日

## 付録 1

リーディング A 授業アンケート

この調査はあなたのリーディングの授業に対してどのように取り組んでいるか、またどのように感じているか、あなたの正直な考えを調べるものです。回答は、守秘され、成績には一切関係ありません。

記入方法：下記のそれぞれの質問についてより近いと思われる所の数字を○で囲んで下さい。どちらとも言えない場合は、3を選んで下さい。

1. 今日授業で読む箇所の予習を、  
 しっかりしてきた 5 4 3 2 1 していない
2. 今日授業で読んだ内容は、  
 興味深い 5 4 3 2 1 つまらない
3. 今日の文法項目の説明は、  
 わかりやすかった 5 4 3 2 1 わかりにくかった
4. 今日授業中隣の席の人と、音読や訳で、  
 よく協力した 5 4 3 2 1 協力していない
5. 予習で不明な点・よくわからなかった箇所は、  
 明確になった 5 4 3 2 1 わからないまま
6. 今日の授業内容には、全般的に、  
 満足している 5 4 3 2 1 満足していない

★★授業に関して何か意見があれば、記入願います。

---



---



---

付録2

アンケートにご協力下さい

★☆☆ このアンケートは、試験・成績には一切関係ありません。 ★☆☆  
 ★☆☆リーディング A の授業の終わりに授業アンケートを実施していましたが、★☆☆  
 ★☆☆そのまとめのアンケートです。皆さんの率直な意見を聞かせて下さい。 ★☆☆

今期のリーディングの授業では、普通のリーディングの授業で使用する多くの小説やフィクションをあえて選びませんでした。事実を平易な英語で書いてあり、知識を広げるような教材を選びました。また、リーディングの授業に協同学習（協力して学習する）を導入してみました。皆さんの率直な意見を教えてください。

1. 今期使用した教材（テキスト）について、
 

満足している	5	4	3	2	1	不満である
--------	---	---	---	---	---	-------
  
2. テキストの内容は、
 

興味深かった	5	4	3	2	1	つまらなかった
--------	---	---	---	---	---	---------
  
3. 隣の人と音読や訳で協力して行う授業形式は、
 

好きだった	5	4	3	2	1	嫌だった
-------	---	---	---	---	---	------
  
4. 授業では、隣の人と、
 

よく協力した	5	4	3	2	1	協力しなかった
--------	---	---	---	---	---	---------
  
5. 英語での読書に対して、
 

他にも読んでみたい	5	4	3	2	1	もう読みたくない
-----------	---	---	---	---	---	----------
  
6. 英語での読書に関して、
 

興味がわいた	5	4	3	2	1	興味なし
--------	---	---	---	---	---	------
  
7. この講義を受講することによって、英語の読解力が、
 

強化されたと思う	5	4	3	2	1	変化なしと思う
----------	---	---	---	---	---	---------
  
8. レベルアップしたテキストを読むことに、
 

挑戦してみたい	5	4	3	2	1	挑戦したくない
---------	---	---	---	---	---	---------

★★何か意見・提案があれば、記入願います。★★

---



---



---

